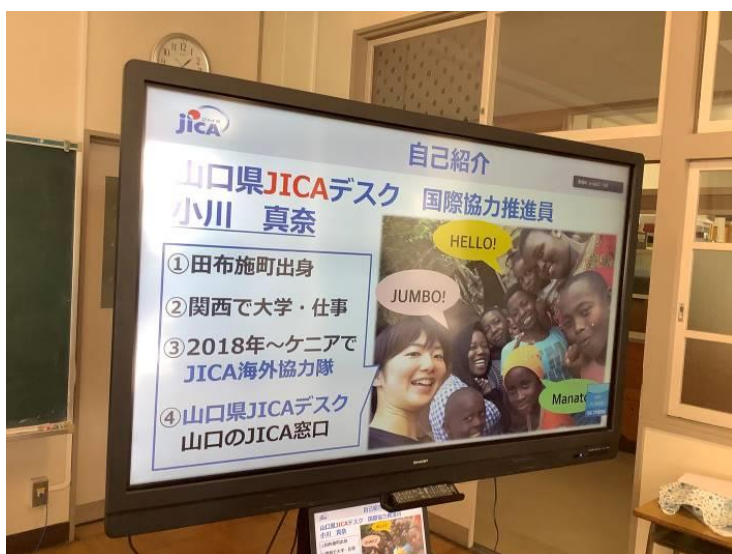


「ちがい」について考えよう ～ みんなが住みやすい社会のために ～

JICA中国山口デスク 小川 真奈
防府市立華城小学校 教諭 山本 直

1. 日時 令和4年1月15日(土) 13:40～14:40
2. 場所 ZOOMによるオンライン
3. 参加人数 57人 小中学校教員、ALT、スタッフ等
4. 内容
① プチ講座「JICAとは?」「JICA海外協力隊体験談(ケニアでの活動紹介)」
 - ・ JICAや協力隊についての話。
 - ・ JICAの出前講座の傾向や多文化共生の必要性についての話。



②ワークショップ I：多文化共生とは、何か？

「私が望んでいることは、同じかな？ちがうかな？」

- ・ 2つの立場（日本人・外国人）から、友だちに望むことを考えることで、多様な考え方を知り、自分にできることは何かを考える。

山口県川尻ダスク

ワークショップ①「私が望んでいることは、同じかな？ちがうかな？」

名前（ ）

ワーク1：ダイヤモンドランキングを完成させよう

あなたが「日本人」として、ケニア人の同級生に望むことはなんですか？

- ① 日本で暮らしてほしい
- ② 日本の文化や習慣を知ってほしい
- ③ 友達になってほしい
- ④ 話しかけてほしい
- ⑤ 「日本人だから○○」という思い込みはやめてほしい
- ⑥ ケニア人と同じように平等に接してほしい
- ⑦ ケニアについて教えてほしい
- ⑧ 考えや好きなことが同じであってほしい
- ⑨ 地域の人と仲良くなってほしい

10 18

20 28

30 38

40 48

50 58

ワーク2：ダイヤモンドランキングを完成させよう

あなたが「外国人」として、ケニア人の同級生に望むことはなんですか？

- ① 日本で暮らしてほしい
- ② 日本の文化や習慣を知ってほしい
- ③ 友達になってほしい
- ④ 話しかけてほしい（そっとしておいてほしい）
- ⑤ 「日本人だから○○」という思い込みはやめてほしい
- ⑥ ケニア人と同じように接してほしい
- ⑦ ケニアについて教えてほしい
- ⑧ 考えや好きなことが同じであってほしい
- ⑨ 地域の人と仲良くなりたい（紹介してほしい）

10 18

20 28

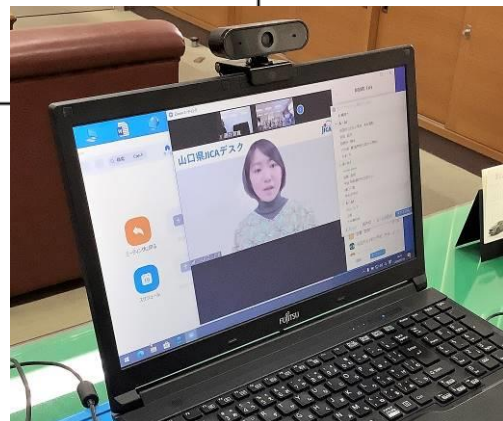
30 38

40 48

50 58

ワーク3：みんなで話しあおう

2つのダイヤモンドランキングを比べて、「ちがい」を話しあおう！みんなの意見をさいてみよう！



③ワークショップⅡ：クラスの中の外国人

「外国につながりをもつ友だちのためにできることを考えよう」

- ・日本人・外国にルーツを持つ人とともに、学校が過ごしやすい場所にするために、自分達にできることは何か考える。

山口県ICCAがスゴ

ワークショップ③「外国につながりをもつ友達のためにできることを考えよう」

名前()

ワーク1

あなたは、最近海外に出るようになったので、ケニアの学校に1年間留学することになりました。現地に行きふくらませて行った留学先の学校では、次のような日本との「ちがひ」がありました。

A: 友達に日本語がわかりません	B: 時間通りに授業が始まりません
C: 食事の前に必ず全員でお祈りをします	D: 食事はいつも手で食べています

1. A～Dの「ちがひ」を知って、最初にどのような気持ちになりますか？


A:	B:
C:	D:

2. A～Dの「ちがひ」に対して、あなたはどうな行動をとりますか？
※ケニア人の友達（クラスメイト）の行動や生活スタイルに合わせる？あわせない？どうします？

A:	B:
C:	D:

3. これからあなたが、1年間楽しく学校で生活するため、「乱もしく」生活するために、あなたがケニア人の友達（クラスメイト）に配慮してほしいこと・気をつけてほしいことは何ですか？

★他のみんなやグループの意見・メモなど




山口県ICCAがスゴ

ワーク2

今、日本の学校で、外国につながりがある子どもたちが学校で困っています。

【困りごとの例】

1	日本語が難しくて先生や友達の言葉をうまく聞きとれない。授業についていけない。
2	自分の国にはない服装やルールになかなか慣れない。(異国行動など)
3	食事や給食の時間など、自分の生まれ育った国ではなかったもので、慣れるのが難しい。
4	宗教について理解が難しい。食事や服装、お祈りなど、配慮してほしい。(イスラム教徒)
5	親が外国人であることや肌の色がちがうことで、「TOC人だから」と、特定のイメージや偏見を持たれている。外見だけではなく、文化・言語・価値観のちがいがから、差別されることもある。



★ICCA 中学校のあなたのクラスに、外国につながりのある友達が突然転校してくるようになりました。お互いが楽しく、気持ちよく学校生活を送るために、あなたが気をつけたいことはどんなことですか？
※「困りごとの例」を参考に考えてみよう！グループで話し合ってみよう！

メモ

Asante sana! (アサンテ サナ) = どうもありがとうごさいました!

④クロージング

多様性や多文化共生に関するワークのコメントや活用についてまとめる。

5. 参加者の感想

- ・ ケニアでの JICA の活動をわかりやすく伝えていただき勉強になりました。多文化理解のワークショップも有益でした。学校でもぜひ機会をもちたいと思います。
- ・ なかなか顔を合わせて話す機会がない昨今です。グループ協議の時間がもう少し長かったらよかったですね。また、今後のつながり・発展を考えると、1回目・2回目のグループは変えてもいいですね。
- ・ いろいろな視点から考えること、考えさせることの大切さに気がきました。
- ・ ちがいについて分かりやすく解説いただき、深く考えることができました。グループセッションでさらに考えが深まりました。
- ・ 日々の学習で活用できる活動や、具体的な資料を提供してもらえ感謝しております。ありがとうございました。
- ・ ブレイクアウトルームで意見交換ができ、よかった。
- ・ 当方の機器のトラブルもあり、十分に参加できなかったのは、残念であった。
- ・ 貴重な体験を交えたお話をいただき有難うございました。今回は実物を拝見できなくて残念でした。
- ・ 多様な考えがあって面白かったです。
- ・ 立場を変えてダイヤモンドランキングを作成することで、他者理解をしようとする気持ちや、相手の背景に思いを 寄せる思いやりの大切さが実感できました。本日（1月17日）に、早速本校の先生方に復伝しました。
- ・ 英語だけでなく外国の文化、慣習、宗教等に関する授業は、大変参考になりました。
- ・ 他の方と意見を交流することで新しい気付きがあり、ぜひ授業でやってみたいと思いました。
- ・ 実際に国際協力出前講座の内容を体験させていただいたので、とても分かりやすかったです。
- ・ 子供達に多様性について伝えるための方法や教材を知ることができて、よかったです。授業に活用させていただきたいです。
- ・ 国籍に関係なく子どもたちの実態に合わせて効果的な方法を学ぶことができました。

6. その他

- ・ 「多文化共生」は、人権教育の立場からも重要な課題である。「ワークショップ」を通して話し合うことで主体的で対話的な深い学びの一助にもなると感じた。
- ・ 今後も情報交換をしながら少しずつ「多文化共生」の考えを広げていけるとよいと感じた。また、実際に授業で取り入れている事例も増えている。実践事例を紹介しながら広げていけるとさらによいと感じた。